

「FD実施支援対策検討部会」の活動を振り返って

小 野 博 宣

1 はじめに

大学における授業のFD活動とは、その基本が文科省の大学設置基準にあることは意外と知られていない。大学設置基準の大綱化に伴う大学関係者は、修学希望する学生に対し絶えず実施する教育活動の公開と自己評価が求められている。

そこではそれぞれの大学が掲げる「教育目標」、「教育手法」、「教育成果」が問われており、当然その自己責任が問われているといえる。

FD活動＝授業公開と聞いたとき、大学にも小学校、中学校、高等学校のような授業に対する目標、内容の点検、授業の進め方、学生の理解度のチェック、授業の他者評価、等一連の授業のシステム構築が導入されるのかと驚いたものでした。しかし、よく考えてみると大学教育が大衆化した今日では大学教育における大学教職員の真剣な取り組みは当たり前のこととなっているようである。(財)大学コンソーシアム京都平成6年よりFDフォーラムが開催しており、平成12年(第6回)のテーマは「学習意欲向上のために」でした。中部大学においても、ようやく平成12年度4月より「FD実施支援対策検討部会」が設立されたわけである。以下、2カ年間の記録をまとめたものである。

2 FD実施支援対策検討部会委員(構成)

小野博宣(建築学科)*1、河内信幸(国際文化学科)*2、三浦真琴(人文・社会教室)*3、龍岡亮二(経営情報学科)、水谷秀行(機械工学科)、後藤英雄(電気工学科)、澁谷鎮明(国際文化学科)、大門正幸(英語・英米文化学科)、大西素子(応用生物化学科)、太田種三(大学教育研究センター)

*1: 部会長、*2: 副部会長 *3 大学教育研究センター(副センター長)

3 FD実施支援対策検討部会の検討理念(目標)

平成12年度より2年間の目標と課題として、以下のような内容を念頭に置き議論した。

1) FD活動推進の目標

- 教員個々の熱意と情熱によって「より活力ある授業を絶えず創作し展開する中部大学」とする。
- 教員個々が持ち得る「教育成果・情報の集積と開示」を行い中部大学の教育資産(財産)として共有し蓄積する。
- まず、受益者の学生にとって、そして教える教職員にとっても物理的にも精神的にも「良好で望ましい教育環境の創造」を目指す中部大学とする。

2) F D活動の課題

- 「中部大学の教育理念の波及と浸透」を達成することが容易に可能となる具体的方策・手段（学部、学科、専攻、系列において中・長期的目標）を立てる。
- 学部・学科単位のF D活動促進によって、中部大学の一層の教育成果が得られるよう評価方法、具体策の見直し検討を行い公表する。
- 授業担当教員相互の教育活動への競争心と適正な教育評価方法の導入を図る。常勤も非常勤教員も受講学生の前では平等であり、等しい立場にあることを明記、認識する。
- 「教育目標」と「教育成果」の自己点検と他者評価の導入により、絶えず「トータルな授業計画(カリキュラムの編成)の点検」と、個々の授業科目における「授業計画シラバスの点検」を行い評価する内部機関の設立の必要性がある。
- 授業公開の（学内）実現への検討、学内各種センターの有効利用する。
- 非常勤講師のF D活動パンフレットの配布とアンケート実施の検討する。

4 F D実施支援対策検討部会の活動の経緯（概要）

平成12年度と同13年度の2カ年にわたり、別紙一覧の通り活動を行った。

主たる項目と回数を示す。開催時期は表に示す

1) F D実施支援対策検討部会（定例）

平成12年度（8回）、平成13年度（10回）の合計18回

2) F Dフォーラム

平成12年度（1回）、平成13年度（4回）の合計5回

3) F D関連講演会（大学教育研究センター主催を含む）

平成12（3回）、平成13（2回）の合計4回

4) F Dアンケート調査「私の授業づくり」

- ① 平成12年度（1月より3月）：常勤教員対象
- ② 平成13年度（平成14年4月）：非常勤教員対象

5 中部大学F D支援対策検討部会の活動経過と項目

1) 平成12年度F D支援対策検討部会の記録(2000年度)

4月 F D支援対策検討部会の創設

5月 第1回F D支援対策検討部会の開催：活動基本方針とスケジュール

6月 第2回F D支援対策検討部会の開催

7月 第3回F D支援対策検討部会の開催

9月 □ 大学教育研究センターF D研修会：

内容 ①記念講演：寺崎昌男氏

題：「我が国の大学教育の変遷とと教育の再創造」

②FDの事例報告：土木工学科

10月 第4回FD支援対策検討部会の開催

11月 第5回FD支援対策検討部会の開催

12月 □ FD講演会：「最近の若者達の心の問題」；桐山雅子先生

第6回FD支援対策検討部会の開催

○ FDフォーラムの参加（京都コンソーシアム）

1月 第7回 FD支援対策検討部会

○ FDアンケート「私の授業作り」配付

2月 第8回 FD支援対策検討部会

3月 □ 大学教育研究センター講演会

「大学教育システムの改善とFD支援」；飯吉 透氏（アメリカカーネギー財団）

○ 第1回FDフォーラム「私の授業づくり」：3月21日開催

田中敦子助教授（社会教室）／櫻井 誠講師（応用化学科）

／千谷慧子教授（理学教室）の3氏による発表と討論

○ FDアンケート「授業作り」回収

2）平成13年度FD支援対策検討部会の記録（2001年度）

4月 第1回FD支援対策検討部会の開催：新規加入メンバー（大門、大西）

5月 第2回FD支援対策検討部会の開催

○ 第2回FDフォーラム「私の授業作り」：5月30日

水谷秀行助教授（機械工学科）／澁谷鎮明助教授（国際文化学科）

／三浦真琴助教授（大学教育研究センター・人文・社会教室）の3氏による発表とそれに基づく討論をした。主題は以下の4項目である。

①「私語の対策」、②「双方向コミュニケーション」、

③「初回講義の構築」、④「学生の反応確認」。

6月 第3回FD支援対策検討部会の開催

7月 第4回FD支援対策検討部会の開催

9月 第5回FD支援対策検討部会の開催

○ 第3回FDフォーラム「私の授業作り」：9月26日開催

後藤英雄助教授（電気工学科）／寺沢朝子講師（経営情報学科）

／平田 豊講師（電子工学科）の3氏による発表と討論

「無気力・無意欲・学習効果の上がっていない学生にどのように接しているか、どのように接しようと試みているか」をテーマとした。

10月 第6回FD支援対策検討部会の開催

11 月 第 7 回 F D 支援対策検討部会の開催

12 月 第 8 回 F D 支援対策検討部会の開催

○ 第 4 回 F D フォーラム：12 月 5 日開催

テーマ「授業作り」アンケート結果の報告：

- ① 小野博宣教授（建築学科）：「アンケートの主題と概要」
- ② 河内信幸教授（国際文化学科）：「授業計画・シラバス」
- ③ 大門正幸助教授（英語・英米文化学科）「授業運営」
- ④ 小栗成子講師（語学センター）「シラバス・授業進行に Web の利用」報告：

「授業作りに関するアンケート調査報告書」の配付を行った。

1 月 第 9 回 F D 支援対策検討部会

2 月 第 10 回 F D 支援対策検討部会

□ 大学教育研究センター講演会

「大学改革と I T 活用」；井端正臣氏（私立大学情報教育協会事務局長）

3 月 第 11 回 F D 支援対策検討部会

○ 第 5 回 F D フォーラム：3 月 25 日開催

テーマ：「W e b」の教育への活用と教材の電子化支援」

- ① 学術情報センタにおける支援環境の現状と今後の方針

学術情報センター 教授 水島章次

- ② 教材の電子化支援と活用へのサポート体制

学術情報センター 教育技術員 杉山恵子

- ③ 授業録画と電子化教材

経営情報学部 教授 竹森一正

6 「F D 実施支援対策検討部会」における活動の総括

平成 12 年 4 月 F D 実施支援対策検討部会委員に委嘱を受けてから平成 14 年 3 月末までの約 2 カ年にわたり別紙一覧の通り活動を行った。それらの活動は限定された期間の中で、ある程度の成果がえら得られたと考える。その成果をまとめると以下のようなになる。

（1）中部大学における教職員の「F D 意識の向上」に寄与

これまでも教育計画調査室（大学教育研究センターの設置母体となった機関）における組織的な委員会活動、国際関係学部の新入教員の研修、土木工学科の F D 研修会等にそれぞれ独自の F D 活動があった。しかし、大学を挙げての組織的、且つ継続的検討は今回の事業が本学における F D 活動の明確な一歩と言えるもので、教職員の「F D 意識の喚起と向上」に寄与したものと考えている。

(2) 中部大学常勤教員へのアンケート実施「私の授業作りに関するアンケート」

中部大学における常勤教員に対し1) 授業計画(シラバスを含む)、2) 授業運営、3) 成績評価で留意していること、4) 授業作りに関して他の教員の工夫で関心のあること・・・など、4項目についてアンケートを行い、多数の教員の個別情報(教育手法に関するノウハウ)を集めることが出来た。結果については大学教育研究センターFD実施支援対策検討部会暫定wwwサーバまたは報告書を参照されたい。

<アンケート調査の概要>

○ アンケート調査の主旨

- ・中部大学FD支援のため講義に関する教員の様々な工夫と努力の成果を個人の財産に留めおくのではなく、教員相互がそれらの情報を交換し理解すること。
- ・授業の方法については創意工夫についての知見を集め、教員全体の知恵(知的財産)となれば、私たちのFD資質の向上に繋がる。
- ・それが学生に対する「よりよい授業実践に」に繋がり、「学習意欲と自己の向上心の喚起」に発展する。

○ アンケート調査の方法

- ・調査対象：中部大学の常勤講義担当教員 185 名(平成 12 年度)
- ・調査期間：平成 13 年 1 月 29 日(月)より 3 月 30 日(金)まで
- ・アンケート内容：①授業計画/シラバスについて

②授業運営について

- ・調査結果：回答者数は 104 名(114 科目)回答率 56.2%であった。結果はホームページ上に開示し、別に報告書も作成した。アンケート結果の内容に対し第 4 回FDフォーラムを開催し討論した。

○ アンケートより明確になったこと

- ・シラバス自体の有効性についてはかなり共通認識となっているが、そのボリュームや形式については様々な意見があるので、今後も議論を重ねる必要がある。
- ・教育効果を上げるために、様々なツールやスキルを利用したり、学生とのコミュニケーションを高めることに教師は常に心掛ける必要がある。
- ・成績評価については、授業科目の種類や必修・選択の別によって考え方が異なるが、理解度・到達度による絶対評価、授業態度・出席回数・小レポートによる総合評価などをどのように融合させるか検討が必要である。
- ・多くの教員は授業や授業の教育効果や学生の授業態度に関して共通の悩みを持っており授業づくりや成績評価法の工夫について、個人レベルの問題ではないという意識を強く持っている。

(3) 中部大学における教職員の「FDフォーラム」の開催

FDフォーラムの開催では毎回約 70 名の参加出席が得られ、その関心の高さは評価に

値する。また、発表内容のレベルの高さと多様性は中部大学の教育方法の豊富さを示すものであり、この種の意見交換に教員が相互により刺激され一層充実した教育環境が作られることを期待したい。内容はフォーラムニュース No. 1～No. 3に掲載報告されたので参照されたい。

(4) F Dに関する講演会

F Dに関する教育講演会は第1回のテーマ:「最近の若者達の心の問題」では教職員として「一般的な若者の心理」と「中部大学で学ぶ学生の心理を具体的に知る」きっかけとなった。

その他、大学教育研究センター主催のF D研修会(平成12年9月)における招待講演:「我が国の大学教育の変遷と教育の再創造」:寺崎昌男氏、講演会(平成13年2月)「大学教育システムの改善とF D支援」:飯吉 透氏(アメリカカーネギー財団)、講演会(平成14年2月)「大学改革とI T活用」:井端正臣氏(私立大学情報教育協会事務局長)のそれぞれの講演は大学のあり方、戦略、教育方針など幅広い示唆に富んだ講演会でありF D活動の基本的考えを支える上で貴重な内容であった。

(5) 中部大学非常勤講師へのアンケート実施「私の授業づくり」

中部大学における非常勤講師に対し「中部大学のF D活動のパンフレットと授業づくり」のアンケート(①授業計画、②授業運営、③F D活動参加の意思)を行い多数の教員の個別情報(教育手法に関するノウハウ)を集めることが出来た。

<アンケート調査の概要>

中部大学の非常勤講義担当教員175名に対し平成14年4月1日配付し行った。回答者数は52名回答率29.7%であった。アンケート回収率や結果は以下のようにまとめられる。アンケート項目は資料2、結果は資料3を参照

今回のアンケートの回答者数が低かったのはF D支援対策検討部会の活動や質問内容に十分理解が得られなかった(反省点)。中部大学の非常勤教員は教育方法、成果に対しても大変熱意を持って対応されている人が多い(回答者の意見より)。非常勤教員は担当科目と中部大学の受け入れ学科・教室によっても、平素の対応が異なるためシラバスの作成、授業内容・手順の検討など教授・指導方法に多様性がある。今後非常勤を含む教員のF D活動を進める上で、非常勤講師との接点や意見交換が大切な課題となる。

(6) 「F D実施支援対策検討部会」委員の反省

F D実施支援対策検討部会の各委員より、以下に箇条書きする内容が寄せられた。2年間の委員会活動を通して強く感じたことは「これからの大学におけるF Dの大切さ」

であり、中部大学において「大学の基本的方針としての本格的なFD活動」が推進されることを望んでいる。そのためには、順序を追って確実な力強い活動方針と体制が必要だと述べられているように思う。

□ 反省点と課題点

- ・FDの具体的なことは出てきたがやや個別的すぎる
- ・授業のやり方や形態について異なる分野から、相互に検討することに欠けている。
- ・FDフォーラムの参加者が固定しており、FDに関する認識が十分とは言えない。
- ・FDに関する議論をテーマを設けて行う。
- ・学部や専攻を越えて演習や講義別に授業のあり方を考える。
- ・FDフォーラムに非常勤、事務職員の参加を呼びかける。
- ・FDの積み上げと継続性を意識して前期・後期に研究授業を考える。
- ・他大学のFDへの取り組みを理解するため見学や研修を行う。
- ・FD活動に対し教員間で認識の差があり過ぎる。
- ・FDは学科や学部が一丸となりその活動に取り組むのが理想であるが現実には欠けている。
- ・FDフォーラムにおいて他大学の先生にも発表してもらおうと刺激になる。
- ・FD実施支援対策検討部会の定期的会議においてFDに関する問題点は浮かび上がってきた。しかし教育支援体制の強化については今後の課題である。
- ・学部や学科の特異性に配慮したFD活動の実体をもう少し情報公開した方がよい。
- ・FDフォーラムやアンケートの実施により、中部大学の授業に関する情報の収集、蓄積開示が出来た。
- ・FD活動への学生の参加の問題点が検討されなかった。
- ・学生の授業評価もFD実施支援対策検討部会の検討事項ではないか。「学生と歩むFD活動」は継続的課題である。
- ・FDフォーラムを通し各先生方の教育に対する考え方、教育方法について紹介と討論があったが、これらより学生の学習力の未熟さ問題も認識が深まった。
- ・中部大学において学科単位のFD活動が緒についてきたように思われる。しかし、これまでのFD実施支援対策検討部会活動だけでは広く伝わらなかったように思われる。
- ・教育に関して全学的な共通認識の醸成法を検討する必要がある。
- ・教育技術の向上に役立つ情報の発信、教員への教育についての関心を一層高める活動が大切である。
- ・教育に応用可能な技術の紹介、利用できる環境の整備が必要である。
- ・教員に対するアンケート「私の授業作り」も教養科目と専門科目、クラス構成など、開講条件によって授業の進め方は大きく変わるので、その点を考慮したアンケートが必要です。アンケート回収率の低い原因ではないか。

- ・活動が全学的な視点に終始し、幾分大味な感じが残った。
- ・アンケートは教員の抱える問題を共有する上で評価できる。しかし、学生の抱える教育現場の状況を掘り下げる必要がある。
- ・授業評価を利用してFDの対象をどこ置くべきか検討する必要がある。
- ・今後の課題として公開授業のやり方（回数、報告義務）についての研究が考えられる。
- ・FDを支援する仕掛けとして実験・実習を含めた個別的テーマの研究プロジェクトの公募とその実践が考えられる。

6 おわりに

熱心な委員の諸先生のご支援とご協力により過去2年間の「FD実施支援対策検討部会」活動は充実していたように思える。世の中が大きな教育改革のうねりのなか、部会の活動が中部大学の将来を左右する「FD・教育活動」として力強くその一歩を前へ踏み出す事が出来たとすれば、それは熱心な委員の諸先生のご尽力のたまものであると考える。

FD活動を中心として中部大学の「教育目標の点検と評価」、「学部・学科の教育目標と教育成果の達成の評価」を開講実施されているすべての授業について行う。そして授業を受けた学生の到達度、教育成果の評価を通して、もう一度「授業・カリキュラム」の見直しと教育方法・指導体制の点検・評価を進め中部大学が学外より広く、また高く評価される大学として地域社会への貢献を果たすべきであろう。

そのためには教職員はもちろん、学ぶ学生諸君との絶えざる会話と努力による信頼関係の樹立が望まれよう。今後、大学教育を含む高等教育はアジア地域と環太平洋地域に於いてきびしい教育競争と淘汰が進むものと思われる。中部大学の独自性、教育における質の高いサービスは「一層個人教育・指導時代へ」シフトするものと考えている。その意味からも組織的教育戦略の確立と実践が求められよう。

（教授 工学部 建築学科）

＜ 資 料：その１＞

常勤教員へのアンケート用紙

＜授業作りに関するアンケートのお願い＞

平成 13 年 1 月 29 日

「氏名」 様

大学教育研究センター

教職員の皆様には、平素より学生の学習意欲と資質向上に格別のご尽力をいただいております。最近、我が国の大学では「より良い教育」作りのためにFD活動が重視されるようになっておりますが、その成果が十分に上がっているとは言えない状況にあります。

中部大学大学教育研究センター内FD実施支援対策検討部会におきましては、本学のファカルティ・ディベロップメント支援のために、講義・授業に対する各種の試みについて、それを個人の財産にとどめておくのではなく、教員相互に情報を交換することが必要であると考えております。そこで教員の皆様の授業に対する創意工夫についての知見を集め、本学の教員全体の知恵（知的財産）とするために、以下のアンケートを実施することに致しました。ご多用中恐縮ですが、宜しくご協力下さいますよう、お願い申し上げます。

尚、アンケート調査結果は、当センターで集計致しました後、読みやすい形式に編集し、皆様にご閲覧できるように致します。

※記入上の注意

今回のアンケートでは「講義科目」を対象と致しました。ご記入に際しては、氏名、担当講義科目名、受講者概数を明記の上、掲げられた各項目についてご自由にお書き下さい。分量についての制限はございません。複数の講義科目を担当されている方は、その中の一科目以上についてお答え下さい。尚、回答作成にあたりましては、一科目につき一部ずつご返答下さいますようお願い申し上げます。またご返答は下記期日までにお寄せいただきますようお願い致します。

記

提出期限；平成 13 年 3 月 30 日（金）

提出先、問い合わせ先；大学教育研究センター（内線 5722, 5723）

提出方法；次のいずれかでお願いします。

1. Eメール（kyokenc@office.chubu.ac.jp）
2. フロッピーディスク（Word、一太郎以外のソフトを利用される場合はテキスト形式）
手書きの場合（今回配付しました用紙に直接記入）

< 別 紙 >

氏名 _____ 科目名 _____ 受講者概数 _____ 人

1. 授業計画／シラバスについて

- ① シラバス作成に関して心掛けていること。
- ② シラバスに記述することによって、効果があった（上がった）こと。

2. 授業運営について

- ① 授業を進める上で心掛けていること。
- ② 技術的な点で工夫していること。
 - 1) レポート・小テスト等を行う上で
 - 2) プレゼンテーション機器を使用する上で

3. 成績評価について留意していること

- 4. 授業作りに関して、他の教員がどのような工夫をしているのか、ということについて、特に関心があること（知りたいこと）。

< ご協力ありがとうございました。 >

＜ 資 料：その２＞

非常勤教員へのアンケート用紙

平成 14 年 4 月 1 日

中 部 大 学

非常勤講師各位

中 部 大 学

中部大学 F D（ファカルティ・ディベロップメント）活動のお願い

皆様には平素より、講義・演習・実験等におきまして、格別のご指導を賜り御礼申し上げます。昨今、教育・研究・管理運営など大学に対する社会の評価には大変厳しいものがあります。

中部大学におきましても、「学生による授業に対する評価」、「教育、研究に対する外部からの評価」、「教育課程の改訂」、「教育活動・改善表彰制度の導入」など、全学を挙げ教育の充実に取り組み「内部からの教育改革の推進」を実践しております。

最近では「大学における教育評価の柱のひとつが F D である」といわれており、多くの大学で本格的な導入が実施され始めております。中部大学の学生にとりましては常勤教員も非常勤教員も先生であることに変わらないことは申すまでもございません。

今回、非常勤の先生方にも F D 活動に対するご理解を深めていただきたくとともにご意見をいただきたく存じます。

私どもの教育改善に取り組む意向をご理解下さり、指導の程よろしくお願い申し上げます。授業運営に関してどんなご意見でも結構です。別紙の用紙、又は電話・メール等により大学教育研究センターまでお寄せ下さるよう、お願い申し上げます。

F D（ファカルティ・ディベロップメント）

F D とは「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称」とであると定義しております。さらに具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施による教員の態度や教材の提示方法など授業方法についての研究会の開催があります。また、大学によっては教育スタッフとしての力量を向上させるための手段・方法の研究開発、教員を対象とした研修、教授方法に係る個別相談を行っている大学もあります。

＜ F D についての文部時報（平成 8 年度臨時増刊号より）による説明＞

高等教育の大衆化とFD活動

中部大学の前身「中部工業大学」が創立された1964年（昭和39年）当時の4年制大学への進学率は約15%でした。現在（2001年）の進学率は実に約38%まで高くなっています。このように大学進学率の増加と共に大学に入学してくる学生の資質の幅広さと学習志向の多様化がみられるようになりました。

そこには、いわゆる「高等教育の大衆化」があります。私たちは「大衆化時代の大学教育のあり方」を考え、他方では「多様化した学生のニーズにこたえ、教育への動機付けと目的意識のめばえ」を喚起する努力が必要です。

中部大学ではまず教員が『学生の目線に立った教育の方法を考え実践すべき時代』に入ったことを認識すること、次いで自己の教授方法の向上のために不断の努力を重ねていく「ファカルティ・デベロップメント（FD）」の実行が極めて大切であると考えます。FDについて共に考え、議論し、情熱を持って教育に取り組みたいと思います。

中部大学における「FD活動の取り組み」

中部大学では平成12年より「大学教育研究センター」の設置に伴い、「FD実施支援対策検討部会」を立ち上げました。現在、部会の構成は専任教員9名、担当事務1名の10名によって成り、月1回の割合で委員会を開催しております。

FD実施支援対策検討部会では、1）FDに関する内外の情報収集、2）学外におけるFDフォーラム、シンポジウムへの参加、3）学内におけるFD関連の講演会の開催など、学外からFD関連情報の受け入れを行っております。

この他、教員による授業づくりに関する事例の発表とディスカッションを行う「FDフォーラム」をすでに4回開催しました。また、学内常勤教員に対する「授業づくりに関するアンケート実施と分析講評」を行うなど、FDに関する積極的取り組みを行っております。

受講者（学生）が納得し満足できる授業の構築

授業方法は学問分野や教科・科目、授業の形態と実践方法「講義」・「演習」・「実習」によっても異なります。また授業の運営方法には受講者数、開講曜日・時間、教室の環境によっても工夫が要ります。しかし、受講者の学習志向に大きく影響するのは担当教員の意欲と熱意ではないかと思われれます。本質的には豊かな知識と考える力を身に付けるため学び向上したいと考える学生が中部大学の大部分であると確信しております。

情熱を持って教壇に立ち、より良い授業の実践を目指して努力されている先生方や受講態度、授業方法に悩んでおられる先生方もあろうかと思えます。そのような共通の悩みを語り合い、より良い授業の作り方について考えることもFDの実践活動と考えます。

大学教育研究センターFD実施支援対策検討部会より

以下の項目にどのような工夫をされておりますか、お尋ねいたします。ご記入の上、教務課又は講師控え室（9号館・10号館）の投函箱にお入れ下さい。貴重なご意見はFD実施支援検討部会において参考とさせていただき、公表させていただきます。

1. 授業計画シラバスの作成と活用（工夫されている点）

2. 授業運営についてどのような工夫をされておりますか

(1) 授業準備 (プリント、OHPなど教材の作成) について

(2) 授業の運営方法について

- 機器の利用
- 小テスト、レポート等の活用
- 学生の意見や授業評価のフィードバック
- その他

3. FD に関していずれかに○をつけて下さい。

- F D フォーラムへの参加を希望（する、 しない）
- 授業の公開について（検討したい、 今はその意思がない）
- 他の教員の授業参観について（望む、 今は考えない）
- 資料のweb上への公開について（構わない、 遠慮したい）

お差し支えなければ担当科目名、ご氏名をご記入願います。

担当科目「 」 氏名

□連絡先：大学教育研究センター TEL. 0568-51-4434 内線 5722, 5723

＜ 資 料：その３＞

「非常勤教員アンケートのまとめ（概要）」

１．アンケートのまとめ

- 今回のアンケートが唐突であり、FD支援対策検討部会の活動や質問内容に十分理解が得られなかった。回答率の低さからいえる（反省点）。
- 中部大学の非常勤教員は教育方法、成果に対しても大変熱意を持って対応されている人が多い（回答者の意見より）。
- FDフォーラム等を通して、授業の組み立て方、授業方法など「授業作り」に関して意見交換の場（FD活動）を展開する必要がある。参加希望者数が約40%あった。
- 非常勤教員の多くが授業の公開（約52%）に前向きであり、他の教員の授業参加希望も約40%であった。この事実は教養科目、専門科目を通して学内の関係教員（講義を依頼している分野の）との「授業作り」に関して意見交換する必要があると思われる。
- 中部大学の常勤・非常勤教員のすべての教員に対して、中部大学の教育方針、教育方法に対する大学の基本的方針を提示しその積極的努力を求める必要がある。そうした上で結果に対して率直な自己評価と教育活動実施上の大学への要望も聞く必要があるだろう。
- 非常勤教員は担当科目と中部大学の受け入れ学科・教室によっても、平素の対応が異なるためシラバスの作成、授業内容・手順の検討など教授・指導方法に多様性がある。
- 今後非常勤を含む教員のFD活動を進める上で、非常勤教員との接点や意見交換が大切な課題となる。

２．設問項目について

（１）授業計画シラバスの活用

- シラバスの内容に幅を持たせている。
- シラバスとは別に授業計画表を配布している。
- 授業の目的を明示している。／講義の重要点を表現している。
- 問題の明確化に様々な工夫している。進度と範囲を考慮している。
- 学生の興味や関心のあることを取り入れている。
- 学生の興味を持ちそうなテーマや問題を選んでいる。
- 前年度の学生のレベルを参考にして授業計画を作成している。
- 授業の流れを示し、学生の反応により変化対応している。
- 講義のエッセンスや重要点を示している。

- 学生が理解しやすいように学生の要求を反映させている。
- 各回のテーマがしっかり伝わるよう努力している。
- 授業内容を提示し授業を進め予習復習を問題点の把握に利用させる。

(2) 授業運営についてどのような工夫をされていますか

1) 授業の準備 (プリントOHP)

○ 板書についてこれられない学生、板書をしない学生にを念頭に置きプリントの、練習問題の補充を行っている。

- プリントの作成に学生の記入を加える工夫。
- パソコンのパワーポイントを利用している。

2) 授業の運営方法について

- パソコン、VTR、プロジェクターを利用している。
- パソコンのパワーポイントを利用している。
- 機器を利用している。
- 毎回小テストを実施し、最終回には 1000 字のレポートにより学生の反応を確認している。
- 授業評価のフィードバックをしている。
- 毎回学生の意見 (感想) を書かせている。学生の成長過程が把握できる。
- 毎回出席調査の紙面に質問・意見を自由記述させている。
- 学生に毎回質問を書かせている。

(3) FDに関する設問

(1) FDフォーラムへの参加を希望しますか。

希望する : 20 人 (38.5%), 希望しない : 24 人 (46.2%)

(2) 授業の公開について。

検討したい : 27 人 (51.9%), 今はその意志がない : 21 人 (40.4%)

(3) 他の教員の授業参観について。

望む : 21 人 (40.4%), 今は考えていない : 24 人 (46.2%)

(2) アンケート資料のWEB上での公開について。

構わない : 33 人 (63.5%), 遠慮したい : 11 人 (21.2%)